



医療・福祉 / SDGs 3

発症前治療に適した「認知症モデルマウス」の開発

No.6

大学院医学研究科 脳神経病理学講座

助教 丹治 邦和(たんじ くにかず)

URL: [https://hue2.jm.hirosaki-u.ac.jp/html/314\\_ja.html](https://hue2.jm.hirosaki-u.ac.jp/html/314_ja.html)

技術概要

- 認知症の出始める「病早期」に治療を開始するほど改善効果が高いことが分かっているが、「病早期」に着目した適切な「認知症モデル」動物はほとんど存在しない。
- そこで、任意の時期に症状を引き起こすことが可能な「認知症モデルマウス」を新たに開発した。



多系統萎縮症モデルマウスの作製手順と認知症モデルマウス

想定される活用例

- モデル動物にて認知症改善効果を検討
- 簡単に「任意の時期」に症状を引き起こす認知症モデル動物を作製
- 認知症の病早期マーカーの同定

相談可能な分野

- 遺伝子改変動物の飼育、遺伝子型決定・遺伝子型判定、細胞培養、生化学的解析および病理学的解析、行動学的解析

問合せ先

国立大学法人弘前大学

(産学連携)研究・イノベーション推進機構 E-mail [ura@hirosaki-u.ac.jp](mailto:ura@hirosaki-u.ac.jp)

(特許)研究推進部 研究推進課 知的財産担当 Email [chizai@hirosaki-u.ac.jp](mailto:chizai@hirosaki-u.ac.jp)